

(参考4)

つくり手支援事業補助金申請者 アンケート調査結果

令和3年

京都市産業観光局クリエイティブ産業振興室

目次

- 1 アンケート調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 2 回答者の属性について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- 3 回答内容について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

<表記について>

この報告書では、「京都市伝統産業つくり手支援事業補助金」を「つくり手支援」という。

この報告書では、「令和2年度に実施した出荷額等業界調査」を「令和2年度業界調査」という。

この報告書では、「西陣織，京鹿の子絞，京友禅，京小紋，京くみひも，京繻，京黒紋付染，京房ひも・撚ひも，京袋物」を「染織」という。

この報告書では、「京仏壇，京仏具，京漆器，京指物，京焼・清水焼，京扇子，京うちわ，京石工芸品，京人形，京表具，京陶人形，京都の金属工芸品，京象嵌，京刃物，京の神祇装束調度品，京銘竹，京の色紙短冊和本帖，北山丸太，京版画，京すだれ，京印章<印刻>，京竹工芸，薫香，額看板，菓子木型，かつら，京金網，唐紙，かるた，きせる，京瓦，京真田紐，京足袋，京つげぐし，京葛籠，京丸うちわ，京弓，京和傘，截金，嵯峨面，尺八，三味線，調べ緒，茶筒，提燈，念珠玉，能面，花かんざし，帆布製カバン，伏見人形，邦楽器絃，矢，結納飾・水引工芸，和蠟燭，数珠，京こま，京たたみ，京七宝」を「工芸」という。

この報告書では、「工芸菓子，清酒，京菓子，京漬物，京料理」を「食品」といい，「造園，伝統建築」を「その他」という。

1 アンケート調査概要

(1) 調査の目的

新型コロナウイルス感染症の拡大の収束が見通せない中、京都市で伝統産業に関わる人々が置かれている状況及び活動を再開し継続するためのニーズを明らかにするために実施。

(2) 調査対象者

つくり手支援事業補助金を申請した団体を除く個人及びグループの代表者740人のうち、交付決定前に中止した者6人を除く734人にアンケート票を送付。

(注：なお、交付決定後に中止した者は734人のうち32名で最終的な交付にした者は702人)

(3) 調査項目

28項目（うち属性事項10項目）

(4) 調査実施方法

つくり手支援事業補助金申請者に対してアンケート用紙を送付し、郵送等により回答を回収し集計

(5) 調査実施期間

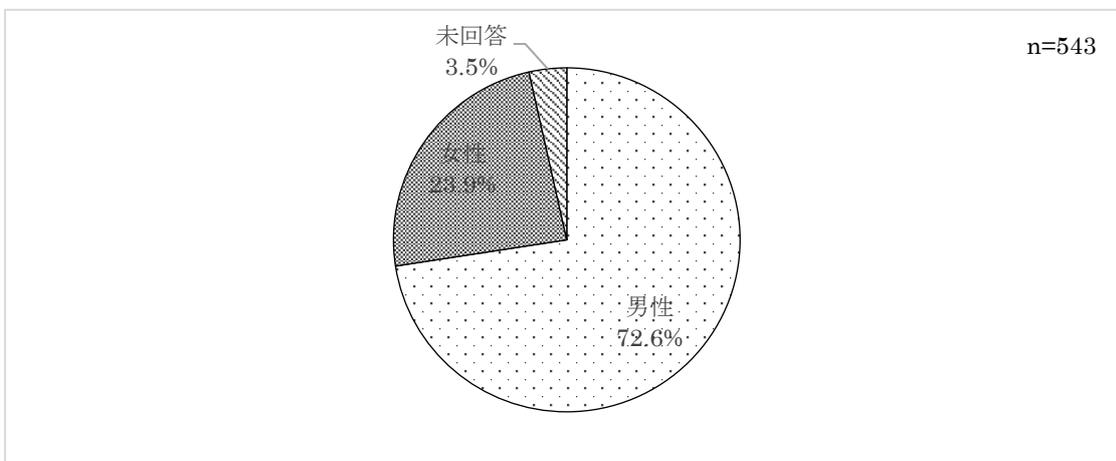
令和2年6月3日～令和3年2月8日

(6) 回収結果

	配布数	回答数	回収率
人	734	543	74.0%

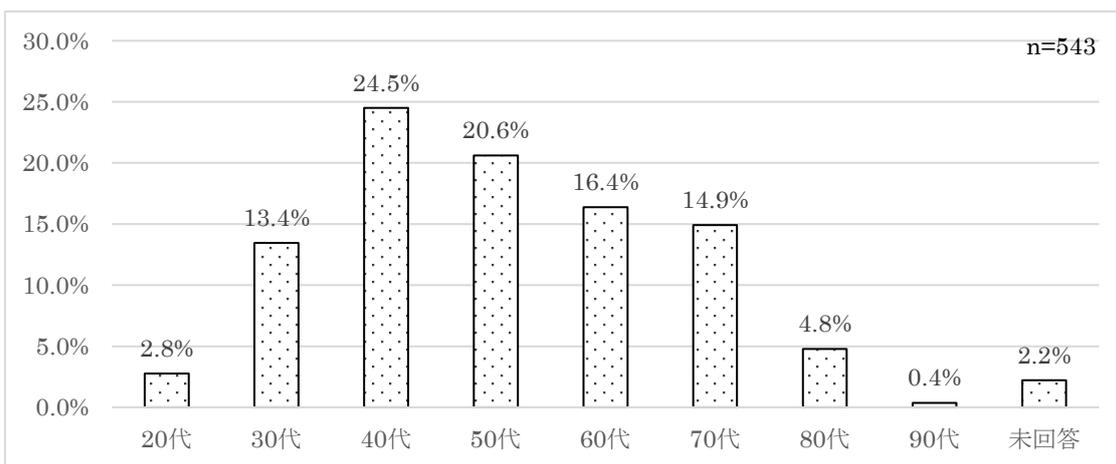
2 回答者の属性について

(1) 性別



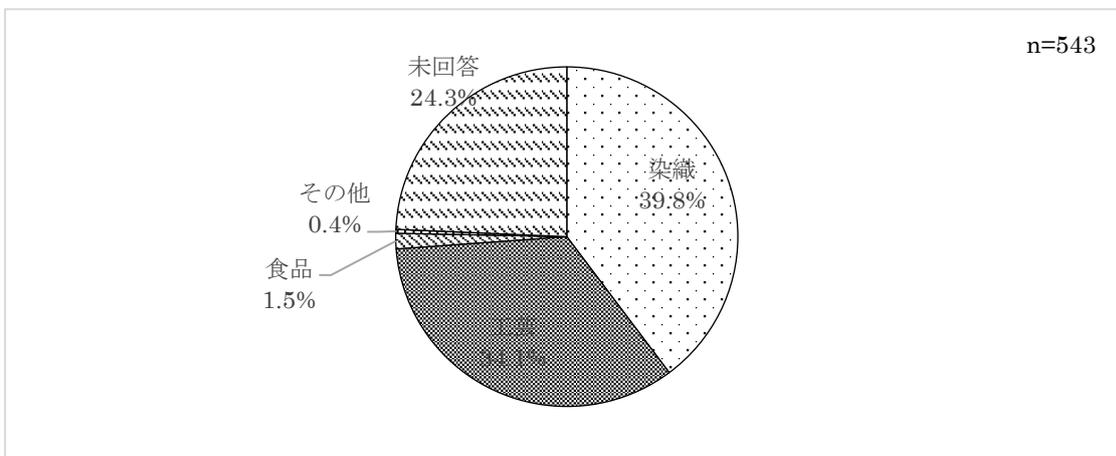
(2) 年齢構成

40代が最も多く 24.5%，次いで 50代が 20.6%，60代が 16.4%。



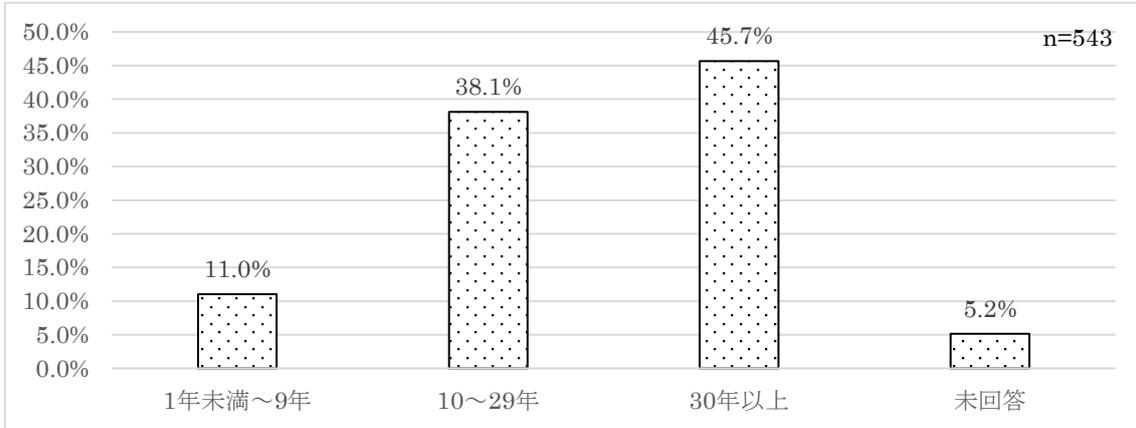
(3) 業種構成

染織が最も多く 39.8%，次いで工芸が 34.1%，食品が 1.5%，その他が 0.4%。



(4) キャリア年数

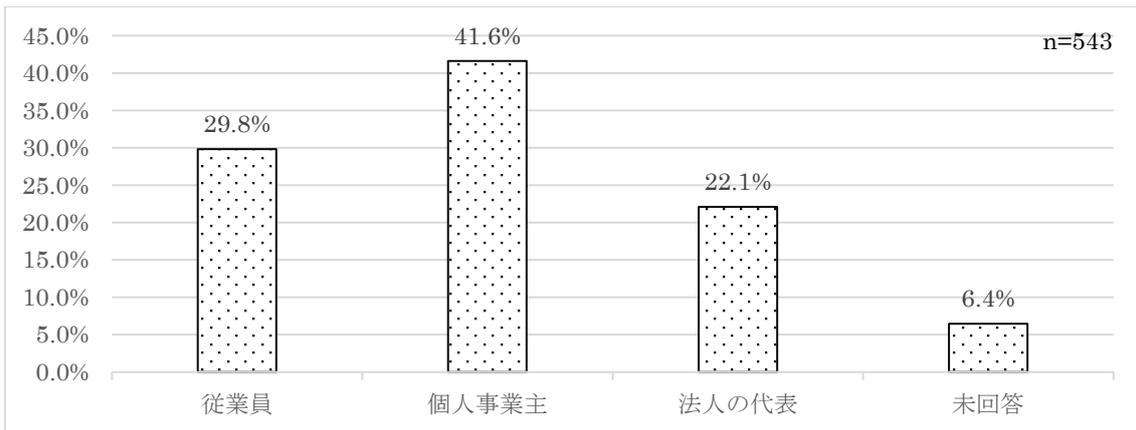
30年以上が最も多く45.7%，次いで10年～29年が38.1%。



(注：年数の間隔が不規則である点に留意。10年刻み（1年未満～9年），20年刻み（10～29年），30年刻み（30年～））

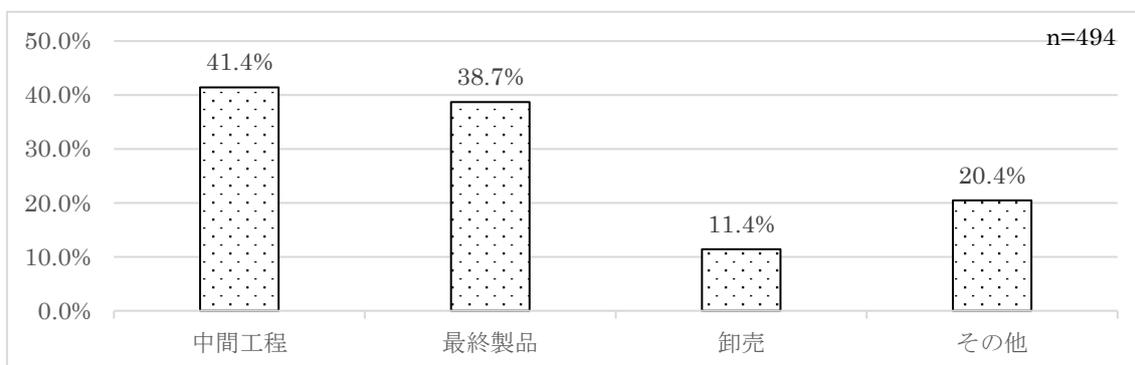
(5) 事業形態

個人事業主が最も多く41.6%，次いで従業員が29.8%，法人の代表者が22.1%。



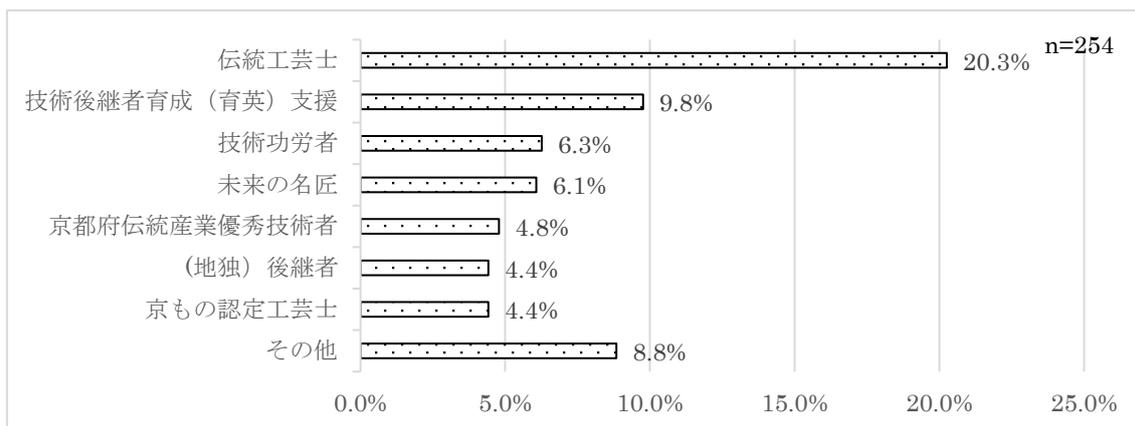
(6) 該当する流通部門（複数回答）

中間工程が最も多く 41.4%，最終製品が 38.7%，卸売が 11.4%。



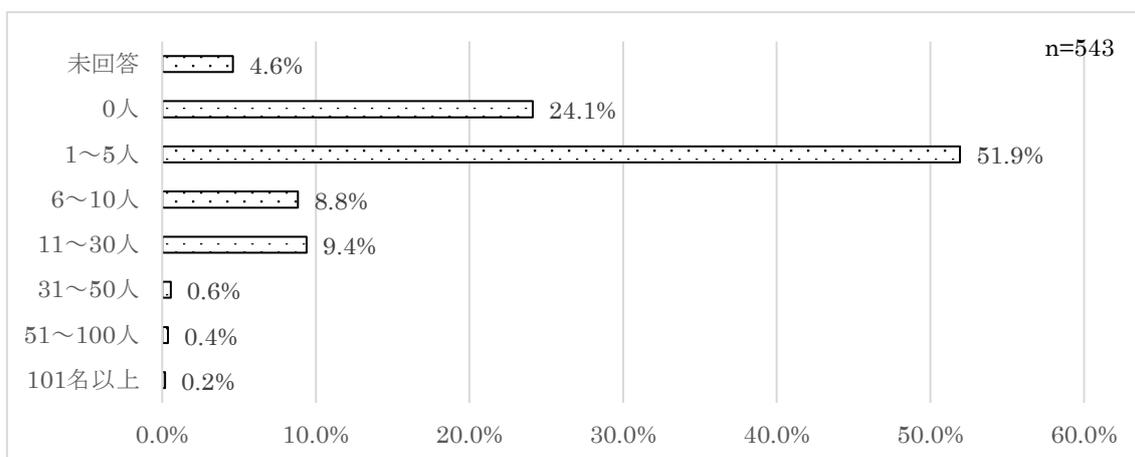
(7) 認定制度の取得状況（複数回答）

取得している者の割合は全体の 46.8%。そのうち、経済産業大臣指定の伝統的工芸品の製造に従事されている技術者として認定される伝統工芸士が最も多く 20.3%，京都市の認定制度では技術後継者育成（育英）支援が最も多く 9.8%，次いで技術功労者 6.3%，未来の名匠 6.1%，京都府伝統産業優秀技術者 4.8%，（地独）後継者 4.4%，京もの認定工芸士 4.4%，その他 8.8%。



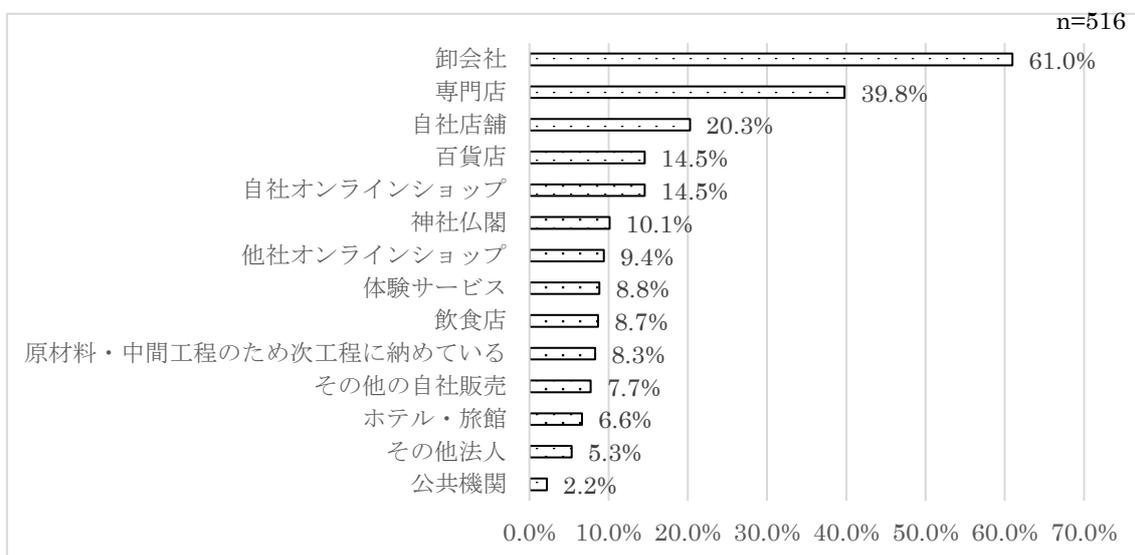
(8) 従業員数

1～5人が最も多く 51.9%，次いで 0人が 24.1%，11～30人が 9.4%。



(9) 主要取引先・販売形態（複数回答）

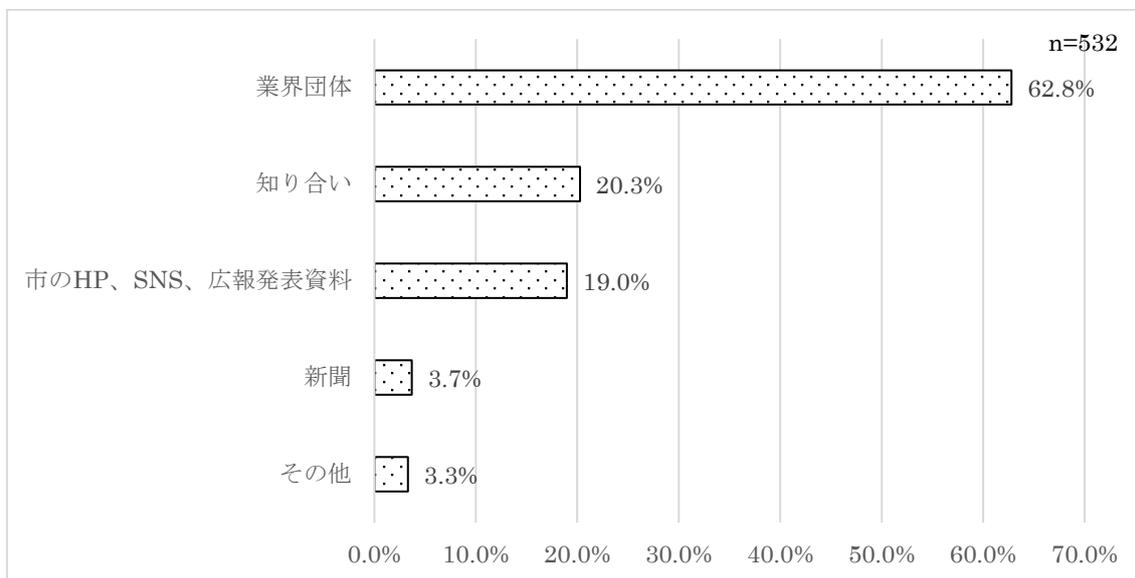
卸会社が最も多く 61.0%，次いで専門店 39.8%，自社店舗 20.3%など。



3 回答内容について

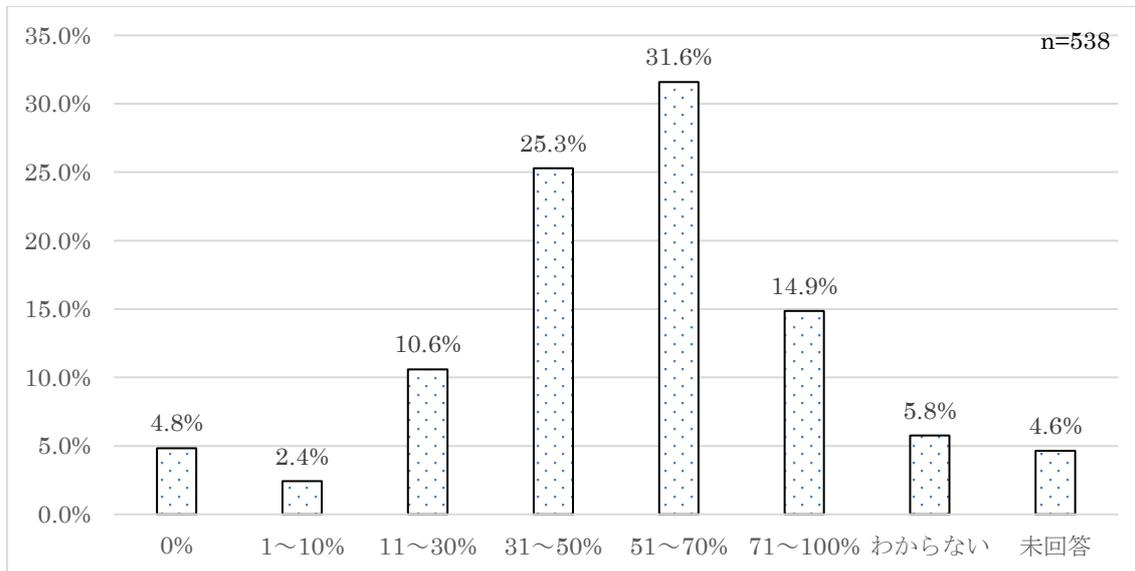
(1) つくり手支援事業補助金をどこで知ったかについて（複数回答）

業界団体の割合が最も多く62.8%、次いで知り合い20.3%、市のHP等19.0%など。



(2) 令和元年6月と比較した令和2年6月の売上の減少について

51～70%減少した割合が最も多く（31.3%）、次いで31～51%（25.0%）、71～100%（14.7%）など。



ア 0%（売上変化なし）と回答した者のうち、今後の見込みについて

	0%回答	今後減少予定	今後も通常並もしくは増加
人	26	22	4
%	100%	84.6%	15.4%

イ 今後減少予定と回答した者の業種

	染織	工芸	食品	その他	業種未回答
人	6	14	0	0	2

ウ 今後も通常並もしくは増加と回答した者の業種

	染織	工芸	食品	その他
人	0	4	0	0

(7) 具体的な業種

京竹工芸, 京焼・清水焼, 京印章, 京漆器

(f) キャリア年数

1年～9年が1名, 10年～29年が3名。

(3) 売上減少の主な要因について (自由記述)

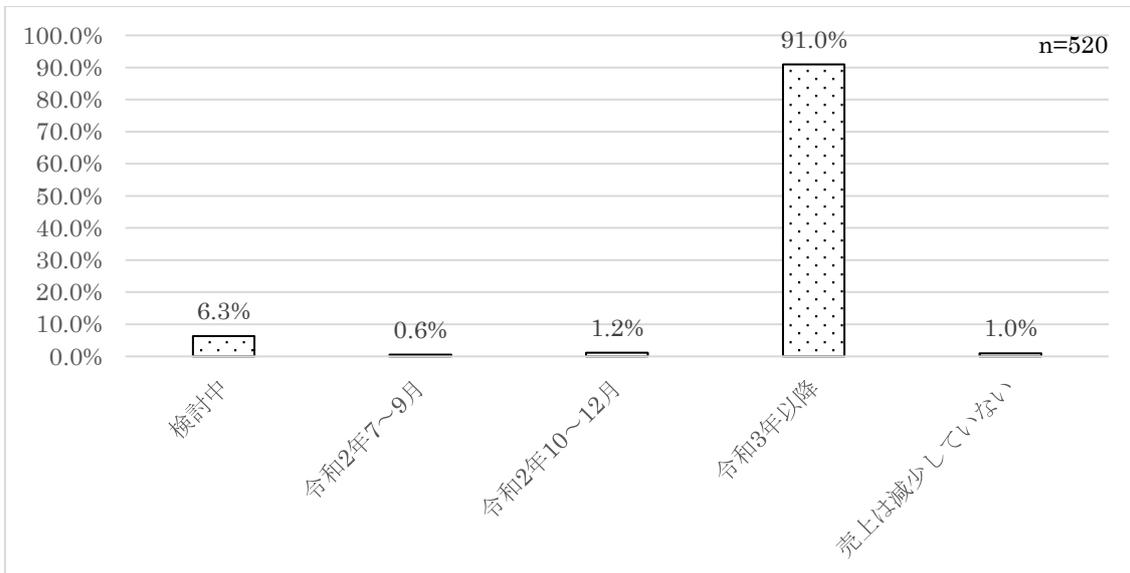
新型コロナウイルス感染症関連の記述が回答の87.6%を占める。

	全体	新型コロナウイルス感染症関連の回答
件	420	368

(注: 記述の中に「コロナ」というキーワードのあった件数を抽出)

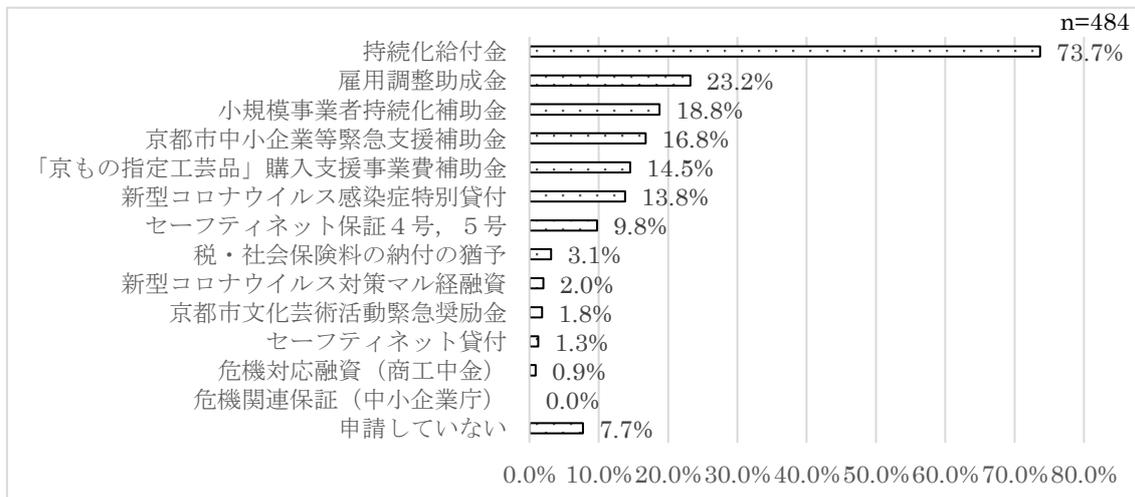
(4) 売上が戻らなければ廃業を検討するタイミングについて

令和3年以降の割合が最も多く91.0%。



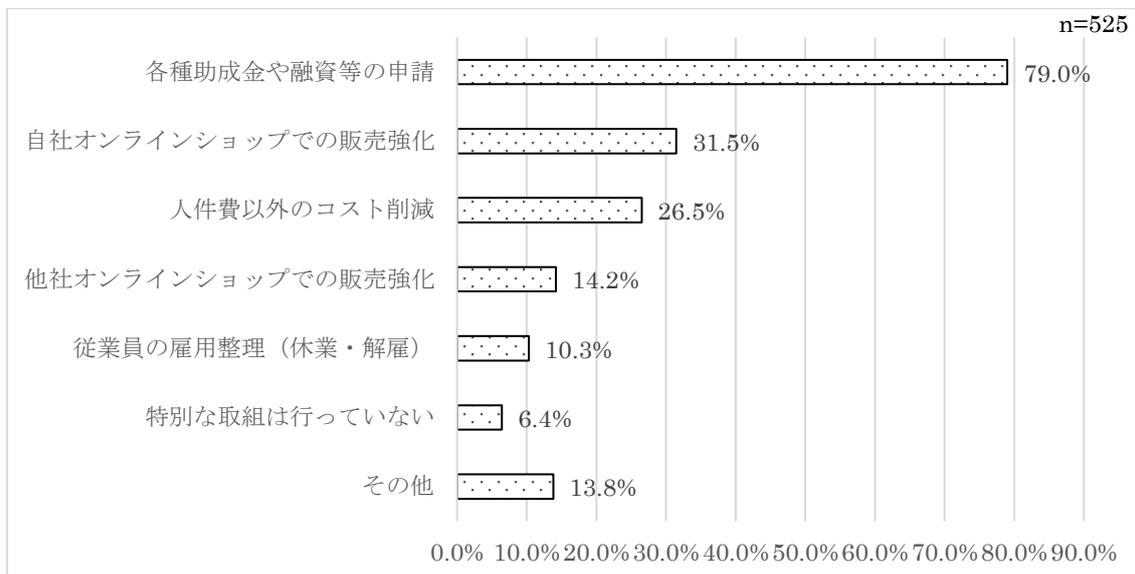
(5) 申請した支援制度について（複数回答）

持続化給付金の割合が最も多く73.7%、次いで雇用調整助成金が23.2%、申請していないは18.8%など。

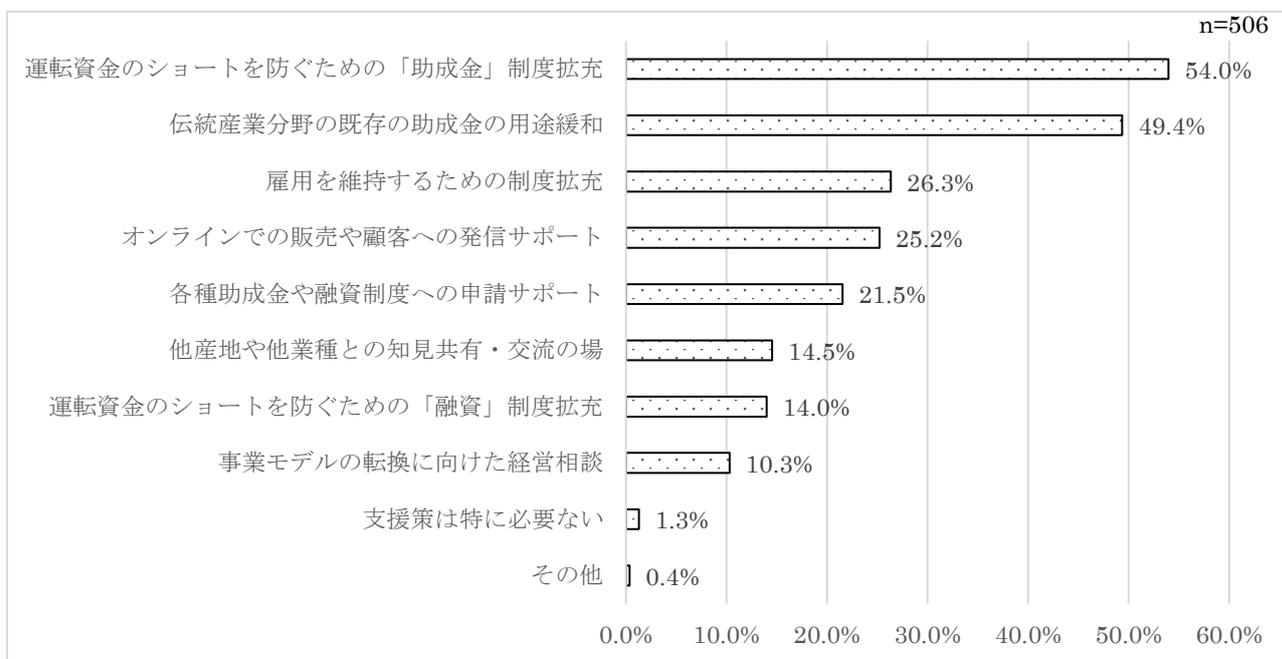


(6) コロナ禍でどのような取組を行っているか、予定しているかについて（複数回答）

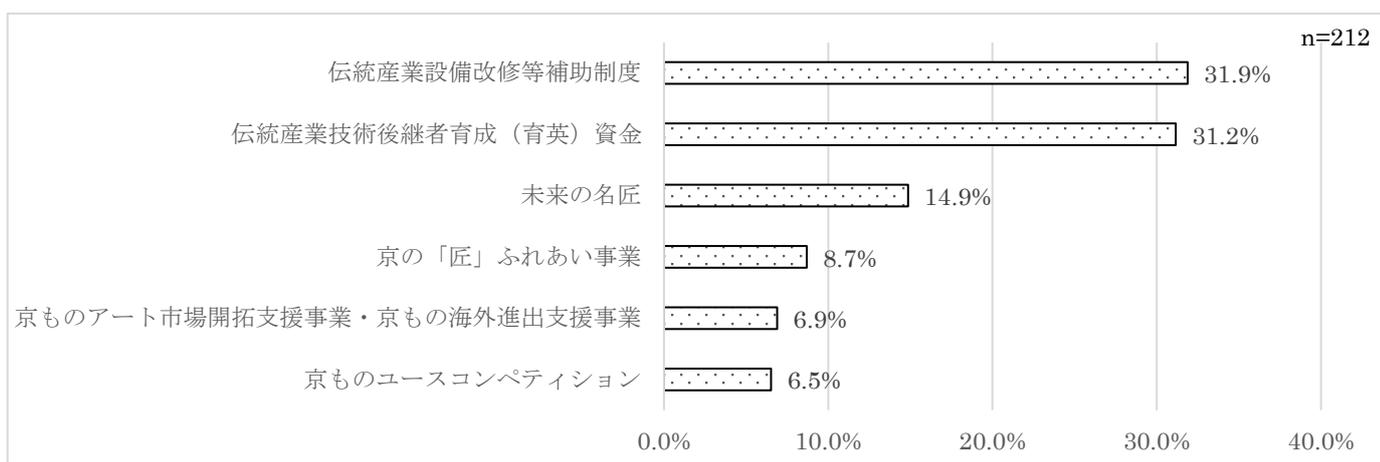
各種助成金や融資等の申請の割合が最も多く79.0%、次いで自社オンラインショップでの販売強化が31.5%、人件費以外のコスト削減が26.5%など。



- (7) 新型コロナウイルスに対するさらなる支援策として求めるものについて（複数回答）
 運転資金のショートを防ぐための「助成金」制度拡充の割合が最も多く 54.0%，次いで伝統産業分野の既存の助成金の用途緩和が 49.4%，雇用を維持するための制度の拡充 26.3%など。



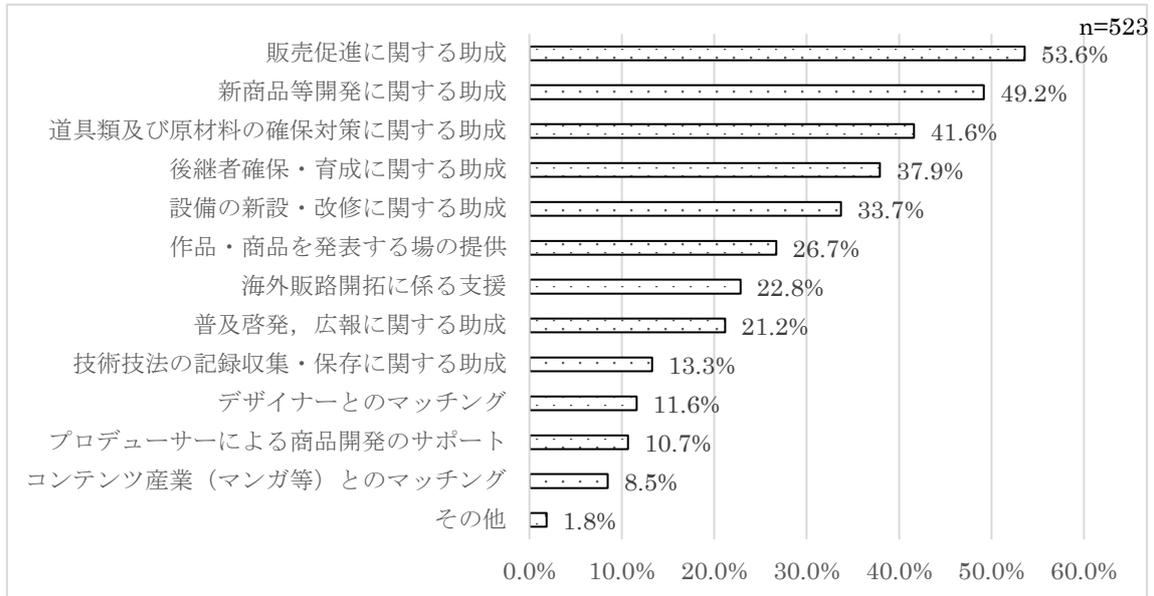
- (8) 本市伝統産業施策の活用状況について（複数回答）
 活用している者の割合は全体の 39.0%。そのうち、伝統産業設備改修補助制度の割合が最も多く 16.2%，次いで伝統産業後継者育成（育英）資金が 15.8%，未来の名匠が 7.6%



など。

(9) 今後、本市伝統産業に関する支援として求めるものについて（複数回答）

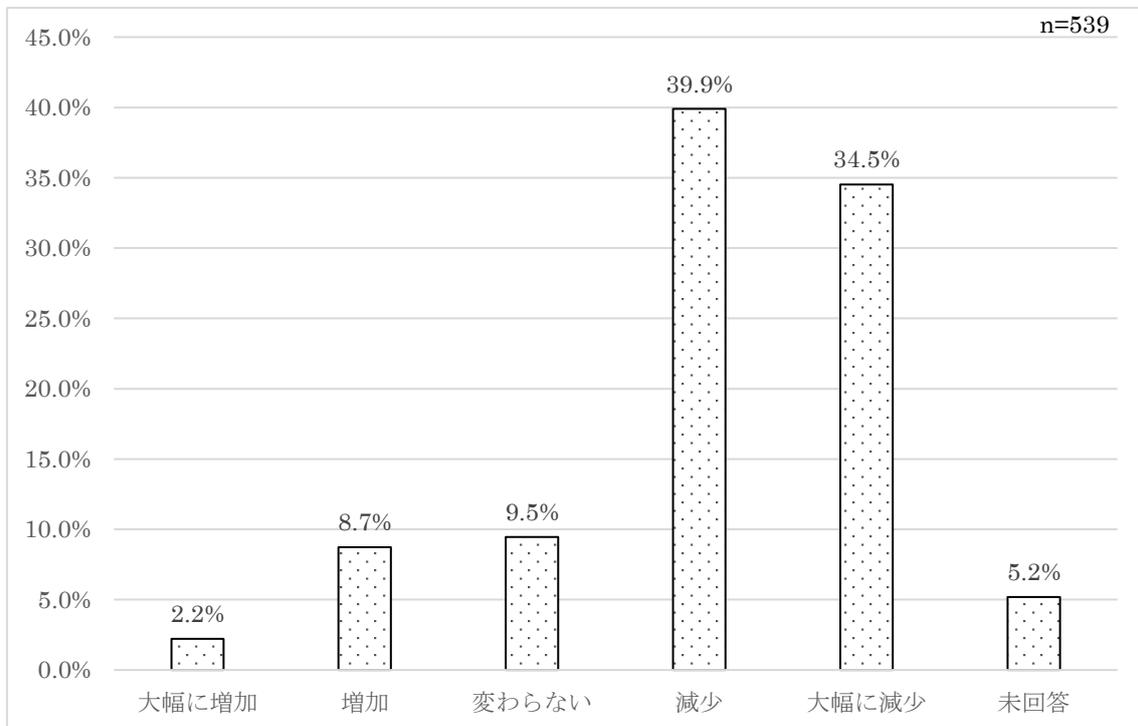
販売促進に関する助成が最も多く 53.6%，次いで新商品等開発に関する助成が 49.2%，道具類及び原材料の確保対策に関する助成が 41.6% など。



(10) 5年前（平成27年）と比較した生産量の状況について

ア 全回答

大幅に減少及び減少が全体の 74.4% を占めている。



イ 詳細な業種別回答

「大幅に増加」「増加」「変わらない」の回答のうち、京焼・清水焼の件数が最も多く、「大幅に減少」「減少」の回答では京友禅の件数が最も多い。

「大幅に増加」「増加」と回答

業種		人
染織 (12)	西陣織	5
	京友禅	5
	京小紋	1
	京くみひも	1
工芸 (35)	京漆器	4
	京指物	1
	京焼・清水焼	16
	京表具	2
	京都の金属工芸品	1
	京象嵌	1
	京銘竹	1
	竹工芸	2
	小規模産地	6
	京七宝	1
食品	京菓子	1
業種不明		11
合計		59

「変わらない」と回答

業種		人
染織 (13)	西陣織	6
	京鹿の子絞	1
	京友禅	6
工芸 (25)	京仏壇・京仏具	3
	京焼・清水焼	15
	京表具	2
	京銘竹	1
	小規模産地	4
その他	造園	1
業種不明		12
合計		51

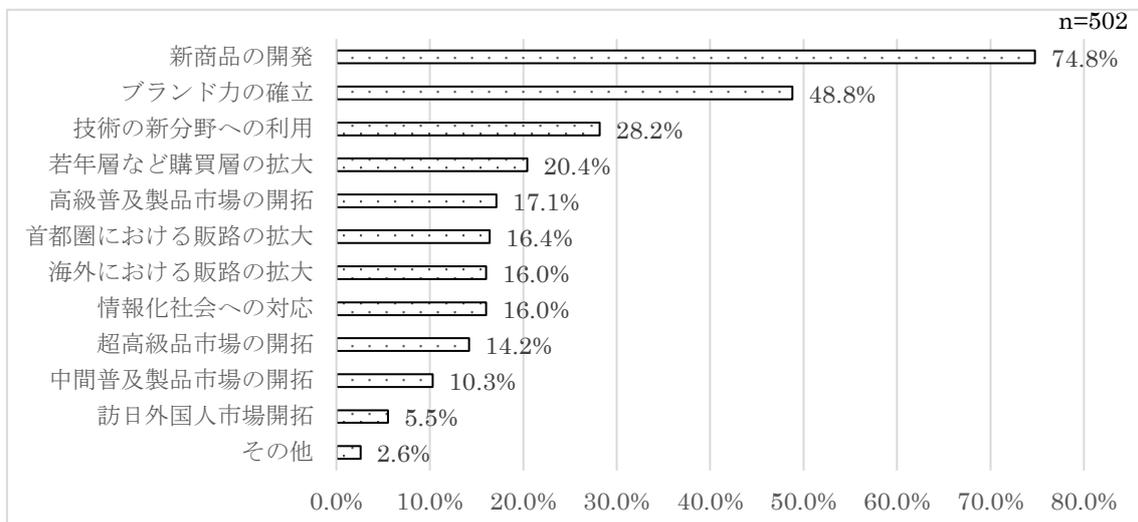
「大幅に減少」「減少」と回答

業種		人
染織 (184)	西陣織	56
	京鹿の子絞	6
	京友禅	112
	京小紋	2
	京繻	5
	京房ひも・撚ひも	3
工芸 (117)	京仏壇・京仏具	14
	京漆器	6
	京指物	2
	京焼・清水焼	46
	京扇子	13
	京人形	3
	京表具	7
	京陶人形	3
	京の金属工芸品	3
	京の神祇装束調度品	1
	京銘竹	3
	京象嵌	1
	京版面	3
	京印章<印刻>	1
	数珠	2
	京たたみ	2
	小規模産地	3
京七宝	4	
食品 (8)	京菓子	6
	京漬物	1
	京料理	1
業種不明		92
合計		401

(注：個人を特定できる業種を「小規模産地」と表記)

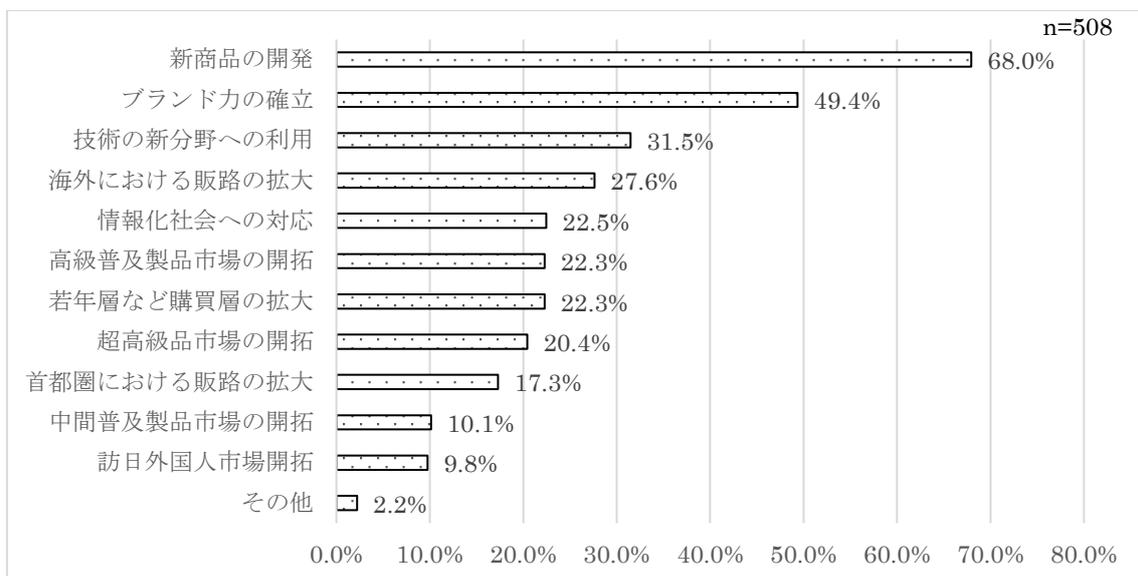
(11) 現在の生産量・出荷額増加のための取組について（複数回答）

新商品の開発が最も多く74.8%，次いでブランド力の確立48.8%，技術の新分野への利用28.2%など。



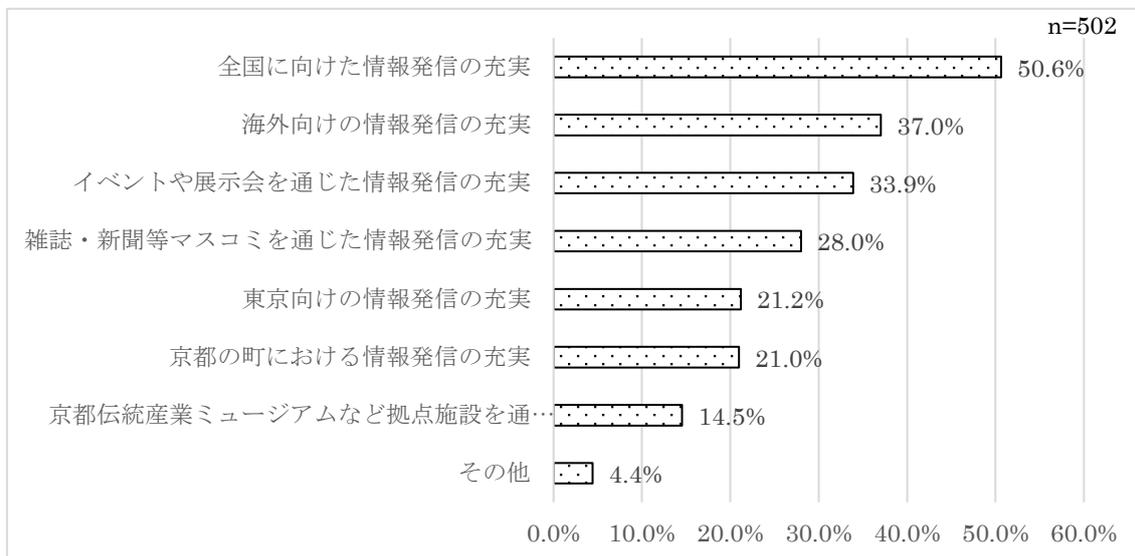
(12) 今後の生産量・出荷額増加のための重点的な取組について（複数回答）

新商品の開発が最も多く68.0%，次いでブランド力の確立49.4%，技術の新分野への利用31.5%など。



(13) 価値や魅力の情報発信のための今後5年の重点的な取組について（複数回答）

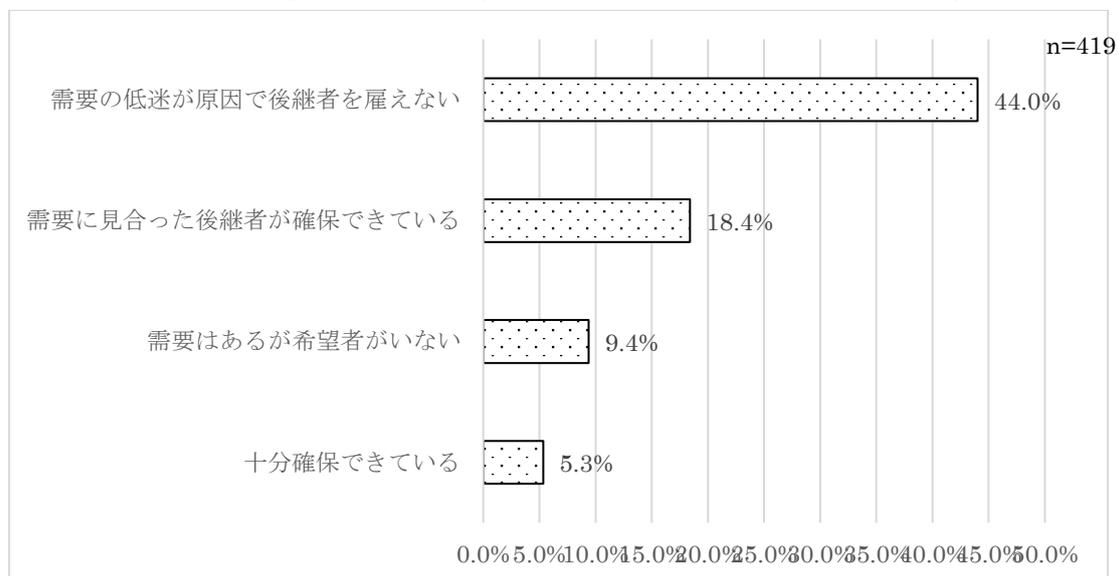
全国に向けた情報発信の充実が最も多く 50.6%，次いで海外向けの情報発信の充実が 37.0%，イベントや展示会を通じた情報発信の充実が 33.9% など。



(14) 後継者について

ア 全回答

需要の低迷が原因で後継者を雇えないが最も多く 44.0%，次いで需要に見合った後継者が確保できている 18.4%，需要はあるが希望者がいない 9.4%，など。

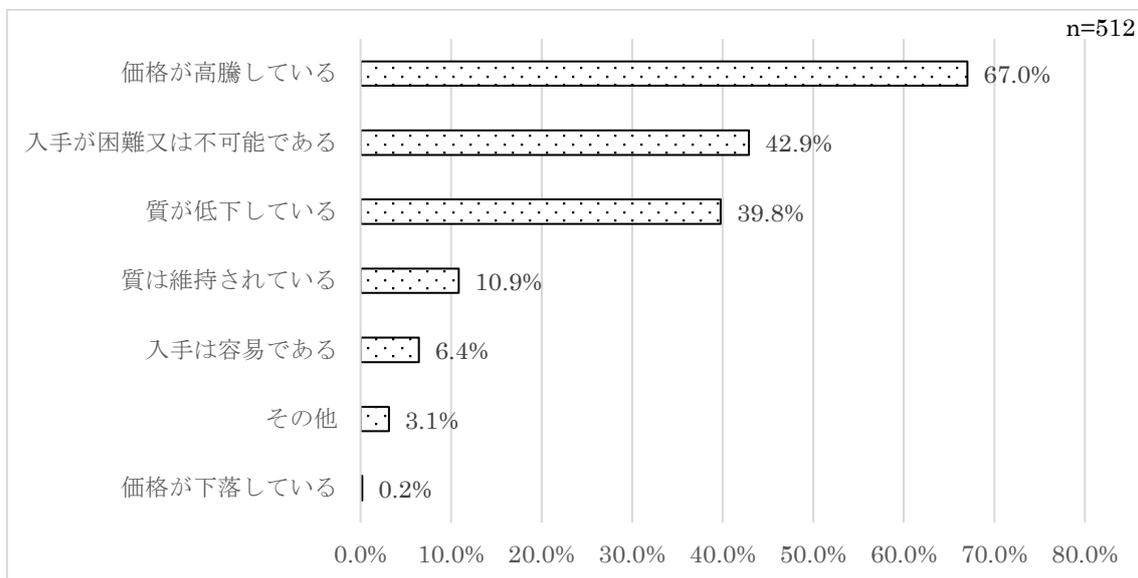


イ 需要はあるが希望者がいないと回答した者の業種

	業種名	人
染織(16)	西陣織	5
	京友禅	9
	京繻	1
	京房ひも・撚ひも	1
工芸(18)	京漆器	2
	京焼・清水焼	6
	京表具	4
	京銘竹	4
	竹工芸	1
	数珠	1
食品(1)	京菓子	1
その他(1)	造園	1
合計		36

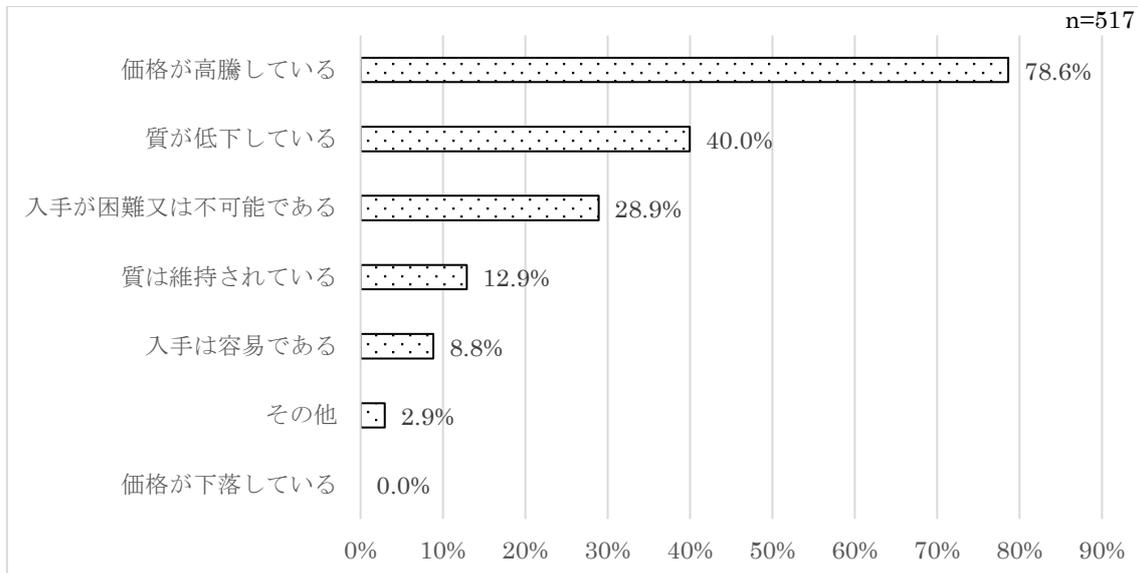
(15) 道具について（複数回答）

価格が高騰しているが最も多く 67.0%，次いで入手が困難又は不可能であるが 42.9%，質が低下しているが 39.8%など。



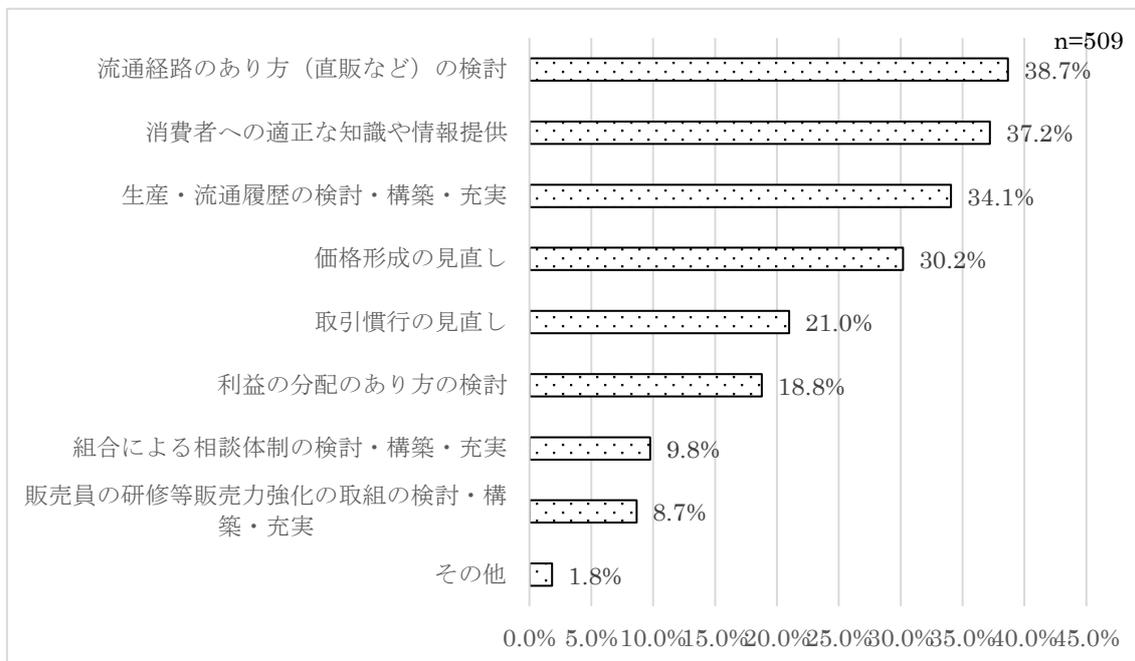
(16) 原材料について（複数回答）

価格が高騰しているが最も多く 78.6%，次いで質が低下しているが 40.0%，入手が困難又は不可能であるが 28.9%など。



(17) 円滑な流通の促進のために優先的に取り組みたいこと（複数回答）

流通経路のあり方（直販など）の検討が最も多く 38.7%，次いで消費者への適正な知識や情報提供が 37.2%，精算・流通履歴の検討・構築・充実が 34.1% など。



(18) 京都の伝統産業製品の普及や振興における課題（複数回答）

着用・使用できる機会や場が少ないが最も多く 44.4%，次いで宣伝やPRが不足しているが 38.3%，値段相応の価値があるのか分からないが 37.6% など。

